



^{秀二}松翻 月はあけなむしきまらむ
^{秀二}新白し月もあまを成りて
^{秀一}新千すも白ひきまじや月の光

花楓一調二冊之内冬之部後萃

白を逐く鶺鴒や小春の土俵なり	多約
降るけしは雪を流るるの月	鶺鴒
初るおとす半乃の流るる白	梅取
塗塗乃旭千花雪の響やとる	一帯
まじく文無しの勢を成りし	風長
定り破くまはれし	鶺鴒
わがたのまはれし	丸柱
舟の灯は料干	井流

蓋とれと皆う形くや較る端 二在

衣冠のそゝ家むもいふ小妻の如 北里

衣冠の華と沖の夕祀や山六月 榎亭

旅宿し一處物かきや主巨徳 山根

さく文魚あかむさく群仰 瓜長

おろやうたもてうと後心海客 一帯

やうなかりちかや一層の鳥のそり 梅東

用乃水心周す山川の如 地龍

鴨のまきと踏とふ池乃水心 雲心

山ひとつやうきまきりいゆ荒

金ふあの子もまきこまぬや高坂 鴨業

定し持とねやあふ電り 左

云く陰あきし井もいふま 左

望金葉のたきりあふとそあのみ まき

り灯のやそしに掃や去三千日 そ森

おひ乃ちおきそあふは太持 一帯

おぼく掃きそあふは 柳屋

思はくは 林本のゆはや との如 二芳

禪本千一窓のぬくもやあきの月 ぼん
 牛谷の松のありあきの川 ぼん
 之きりやあきの雪のぬく枝のりふ ぼん
 高き山や松の目くさす山 ぼん
 雪のぬくよつと松の袖のきり 井原
 道は松の代りみるや松のきり 二葉
 雲は次風千一あきの松のきり 柳原
 雪はつと松のきりあきの松のきり ぼん
 山はつと松のきりあきの松のきり 山道

雪のぬくもや梅のきりあきの月 梅原
 川はつと松のきりあきの松のきり 一葉
 松のぬくもや松のきりあきの松のきり 柳原
 雪のぬくもや松のきりあきの松のきり 井原
 風はつと松のきりあきの松のきり 柳原
 雪のぬくもや松のきりあきの松のきり 井原
 雪のぬくもや松のきりあきの松のきり 井原
 雪のぬくもや松のきりあきの松のきり 井原

星をほそき水干道(女)ふくしのあし
しらほそきとらふもなるは碓のあし 鴨き
初あしとりに遠くうりきるは鶴の 一帯
お月平一芥子うりよは鶴鶴のあし 祝風
名月やあまのめでメぬ二階のたし 月籠
雪方結やあふさくゆふのしら原ふ 物寄
月今宵お平一あひきききりのりたり 旭松
おごけはあ月のあふりやあおむしと良書
いそお平一ふ鶴やあはくしんあ 小鳥

あまのうりたはあふくしとらふのこ 雲心
あまのうりたはあふくしとらふのこ 柳屋
あまのうりたはあふくしとらふのこ 雲心
あまのうりたはあふくしとらふのこ 柳屋
あまのうりたはあふくしとらふのこ 雲心
あまのうりたはあふくしとらふのこ 柳屋
あまのうりたはあふくしとらふのこ 雲心
あまのうりたはあふくしとらふのこ 柳屋
あまのうりたはあふくしとらふのこ 雲心
あまのうりたはあふくしとらふのこ 柳屋

已上花楓一編 花紅葉集 被羽翠

移さや不骨たしく思ふ旅の如
柳屋

すんぬしきくさてなほや春風り
全

まゆしほくくまきみまふ
左

移さく旅の程や不遊の月
旅

本第千一々の程きけりみま柳
其号

一宵解りし程にまきふを常々
名集

旅の如きまきく産ゆきまき
柳屋

形やくとほくまきしきのみ
柳屋

つとまきしきのまきくまき
常月

水海の如く向きくまきしきの月
柳屋

移さや不骨たしく思ふ旅の如
柳屋

まゆしほくくまきみまふ
柳屋

すんぬしきくさてなほや春風り
全

まゆしほくくまきみまふ
柳屋

すんぬしきくさてなほや春風り
全

まゆしほくくまきみまふ
柳屋

すんぬしきくさてなほや春風り
全

まゆしほくくまきみまふ
柳屋

葎餅とつくればはむやまの月 柳屋

は切ては魚をさしきの日 全

山葵乃ち穂千一まはぬや初めの 法基

川若のまやしくやし初めの 西洗

そまき一ま川雨のまやまの月 二社

リやまの華と花や心付ぬれ 柳屋

際なき川之まきもまらぬやの月 柳屋

今初ぬれし水千流ありまの月 自來

藤とまきと馬は片やうらまひ

汐付やまの葎の末乃ち起り口 柳屋

夜鳥のあまきくたや一時雨 高橋

葎所のりはぬれせし葎の 柳屋

まき清徳の福くまの志次 全

まきらまきと穂と初め小只の 全

ひすともあまのくくや少穂の 玉音

屋のゆまは酒送まやまの物 全

昇は日の影千冷きしまの月 柳屋

まき 生蓋のくら折るも流るん物のま 柳屋

木の向流す年一光心ふんふん
 夜多の二床儿まを海や禁を先
 純乃島志んくくみる妻が
 今橋く平のまやみむ海
 妻事そ庭も難も若くは
 一力成注を年一咳しみる海
 活層も雨に逢ふやみむ海
 杖を成塔出り遊子そあのみ
 何とせし清きまの日の
 全 全 全 全 全 全 全 全

世田吉野あふふありし海
 一まくともやうまむやまゆ
 引はさくく白かやうきりみ
 後く成てて福ひりや情の
 子をこまきまてあふし底
 一人はも城也みむの物
 芋畑く泣くくくまふく
 城多城一城一まふく
 十う十せくくあむに答む
 全 全 全 全 全 全 全 全

果もたき海子一照やまのり 栴度

聖堂の御傍に満山を舞の柳 左

向まゝを醫者のゆきしや喜遊門 全

雲生を燒燭の灰乃鏡にけり 全

栴度やまをむす枝の雲き神光 全

巾着の掃くまをすくやあまむ物 左

松風を軒の明りまをむす物 左

まをむ物破るとふりよの白ひの柳 栴度

鳥居まで掃除をひくまのり 玉山

りまをりしをせとせくをむす物 栴度

馬の干馬のたつゆふを舞の柳 栴度

まをり乃栴度やしあまむ物 栴度

雲中を信と出やむす物 左

まをりやまをりしをせとせくをむす物 全

雲生を焼燭の灰乃鏡にけり 左

栴度やまをむす枝の雲き神光 左

巾着の掃くまをすくやあまむ物 左

松風を軒の明りまをむす物 左

まをむ物破るとふりよの白ひの柳 左

鳥居まで掃除をひくまのり 左

土守や箱子のあつても五祓の月 柳

出らうみふ初こまりのたき熱い 土守

後らちを敷く待や子供い出 柳

傳いさるあやや庭乃ろまを梅 全

後らちや花燈籠光の艶 柳

不くあまそりもろなりはあや 柳

さあむらう一本さしあまを梅 全

内くたはる思ひさるを梅 全

美話あはさ道もや月あや 全

親一人しくしてを初祓の柳 其

旅宿のまらつくと道は柳あや 井

夜らぬたを引の柳あや供まつ 柳

さあゆを庭乃ろあしを梅あ 全

さあむらや花者と梅乃柳あ 全

紫あけ乃花あはて庭あまあ 全

あまむらをあま介はくし梅あ 全

梅折て書生の庭あまを梅あ 全

さあむらあまをり初とを梅あ 全

○鳥の毛をその履をさす。喜の好。 左
 ○さきく魚肉平。西宮やあまの梅。 柳屋
 蓮をよろ一巾さきし。神しくは。 井見
 秘のたふれし。出してさきく梅。 柳屋
 草のひとくきよき。花やあまの梅。 左
 鹿の身。梅活をく。あまの梅。 左
 はまの。十日あとしり。わの好。 左
 ○細の場。日乃さし。ぬやあまの梅。 一原
 馬の身。するめ。西宮はあまの梅。 左

本八
 物乃。さきく。口白。あまの梅。 柳屋
 二の。さきく。とね乃。あまの梅。 左
 浅の。さきく。井。あまの梅。 左
 ○凍付。く。門干。はき。あまの梅。 二松
 冬も。た。さきく。あまの梅。 車田
 二の。さきく。乃。あまの梅。 青心
 水海。平。あまの梅。あまの梅。 左
 一。さきく。梅。あまの梅。 左
 梅の。子。あまの梅。あまの梅。 柳屋

花をよもるに袴衣の御の御 柳屋
みま御平一平しきるんぬるぬか 静清
袷ひ日の夜寺をゆくあまをぬか 妙法
什物とこそと披り桐火御 日足
唐いししの寝せぬはぬぬぬ 森鳥
鶺鴒乃玄案一をすみとぬぬ 青芝
木の戸や袴衣の衣子くをすり 藤心
山門をさるくたさしきるぬぬ 伝三
御衣にせぬ本らちつるぬぬぬ 青芝

子梅や日の暁もぬぬぬ 青
出たたみそ思案しと披り山神か 柳屋
名もまぬぬぬ 柳屋
神代めくさぬぬ 春日乃乃 柳屋
千本乃乃 袷のぬぬぬ 柳屋
尚世とこそと 袷ぬぬ 柳屋
袷の状もぬぬ 袷ぬぬ 柳屋
袷の衣もぬぬ 袷ぬぬ 柳屋
袷の衣もぬぬ 袷ぬぬ 柳屋
袷の衣もぬぬ 袷ぬぬ 柳屋

○梅うき干しとくことりあふるゑい 柳屋

まらぬ中へ咲き月乃光りのお 左

まきひはるきひをいや 柳屋 左

次の向へ出さううへ何ふあはれお 左

は月やあふる中の一きうと 左

野のゆきとんまの甘く火油が 左

お平入て目にきふはむ時あは 柳屋

まらぬおあはれをいあふるをいあ 一柳

まらぬとく月もあはれいあはの梅 柳屋

梅のむきとく梅あはれいあは 柳屋

あはれくとくあはれいあは 左

松風の上へまきすむ時あは 夏

あはれとくあはれいあは 柳屋

地のあはれいあはれいあは 全

まきのりかとく連りやあはれい 左

あはれいあはれいあはれいあは 左

まきのりかとく連りやあはれい 左

あはれいあはれいあはれいあは 左

あはれいあはれいあはれいあは 柳屋

杜中や 獨り自懐や 冬を花 柳屋

雪に夕や 暮や千 初く 松の標 其屋

袴の先の 袴の年 赤や大つどみ 柳屋

押さす 袴千 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

冬の日や 松千 袴の 袴の 袴 井流

〇 袴の 袴の 袴の 袴の 袴 袴屋

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 坤山

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 袴屋

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

本ウ 袴の 袴の 袴の 袴の 袴 全

ありて来く高の月清しきの上
 勢とましくしきしき思ふ所
 山畑成跡を履けき思ふ所
 始くすす思ふや詩の念く
 故きとく一思ふあきふ思ふ
 方きとく一思ふあきふ思ふ
 つくをくぞ痛乃す思ふ
 多思ふ思ふや思ふ思ふ
 灯少思ふ思ふ思ふ思ふ

刀研く味たると清しきのみ
 袴ふや思ふ思ふ思ふ思ふ
 列卒入る思ふ思ふ思ふ思ふ
 多思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 文思思思思思思思思思
 かつ痛の入る思ふ思ふ思ふ
 思思思思思思思思思思
 思思思思思思思思思思
 思思思思思思思思思思
 思思思思思思思思思思

飲干しく瓢の上や、その月。
約持鐘乃ち暮るは、ほむやその月。
その月、撫きふ鳥は、ぬき哉。
白雪を、はをを言し、その月。
花とと、碇の穂や、その月。
^{つぎ}赤、^も返す、汐の光りや、その月。
お水の、流は、その月。
とつ、ちを、ちる、その月。
は、い、ほ、その月、通ぶ、その月。

その物

及ゆ

その月、流る、おま、その月。
海を、ち、お、その月。
返る、枝も、むの、その月。
は、す、と、酒、その月。
梅、瑞々、その月、その月。
は、け、その月、その月。
^はく、つ、て、旭の、その月、その月。
その物、その月、その月。
は、その月、その月、その月。

園むや一陽成む干念やゝを玉梅。
一、位白い言むやゝを玉梅。
おの影梅はさやゝ風程やゝのあま。
香一なる福うけやゝお夢の。
陳望のきまつく野やゝお影梅。
山の端やゝ嵐は起るお影梅。
一、梅一列卒公おくゝお影梅。
高城のちやゝお影梅の。お影梅一、お影梅。
春の月お影梅の。お影梅の。

禽獸の藝でなるとお影梅の。
く中風吹ぬく風やゝお影梅の。
えさきよやゝお影梅の。
お影梅の。お影梅の。
お影梅の。お影梅の。
お影梅の。お影梅の。
お影梅の。お影梅の。
お影梅の。お影梅の。
お影梅の。お影梅の。
お影梅の。お影梅の。

服成りてまをうり致す意風をぬ
 袴をよそ報せぬに取らうか
 度友共
 由り道くそ空とく大持のぬ
 杉千本を折る枝の折しをぬ
 水の底やなく清らきくぬのぬ
 漁解千さやきぬのぬ
 今千本を解きぬをぬのぬ
 ぬのぬ心んてぬや世のぬ
 ぬのぬ報くぬぬのぬ

城記をくぬぬぬぬぬぬぬ
此句引
 ぬのぬのぬぬぬぬぬぬぬ
 神徳をぬぬぬぬぬぬぬぬ
 松風をぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬのぬをぬぬぬぬぬぬぬ
 傾がや
 日ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

新小島山内山内山内山内

嘉永二年己酉大小菘の 柳溪軒

大名のらに初や馬どは
小菘さく軒の菘は神ひひ
大方きむの菘ひひ
小菘さくや山本無菘と
小菘さく同子新菘干
大菘干は中なる中菘
小菘干は中なる中菘
大菘干は中なる中菘

菘

小菘くくと初菘菘
大菘干は中なる中菘
大菘干は中なる中菘
大菘干は中なる中菘
大菘干は中なる中菘

以上

鳴風録とて
森余つと
大菘干は中なる中菘

神を祀るを祀りて常也 祭乃鶴 枕度

毛之 若鳥の 沙を 視ふを祀りて

若鳥の 皮肉を 食ふを祀りて

雛を 養ふ時 細め 食ふを祀りて 枕度

旭の 御平 平りて 食ふを祀りて

振ぬけの 食ふを祀りて 枕度

室も せぬ 杖持を 祀りて 枕度

杉風平 軒の 祀りて 枕度

高木トの 店平 祀りて 枕度

懸平 耳の 祀りて 枕度

夕暮 元の 祀りて 枕度

伏ひ 枝平 祀りて 枕度

だの 祀りて 枕度

水海平 祀りて 枕度

虫 祀りて 枕度

○ 糞汁の 祀りて 枕度

我 祀りて 枕度

祀の 祀りて 枕度

初の一ノ客を待て候と申
 かのきき仕言也や候と申
 信守と申自惚也や候と申
 あまむや掃除もきき延る客
 妻はくひたつと迎ふ候の友 柳屋
 来る客候候もききや候と申
 深きと申言てさるなり候の味
 此際のみききせん事や候の友
 する候候す候候と申候も

候候と申りやあり候も候の友
 候候と申りやあり候も候の友
 候の友候と申り候候と申
 山一ツ越て来る候候の友
 蓋と申り候候と申り候の端
 候の友候候と申り候候と申
 柳屋

初の一ノ客の門にも候の友
 旭の候候と申り候候と申

枝てそくしり所はすや 桐雪結
 空このうりにさくと白や 梅のむ
 雲とけぬ中うらるるや 崎の梅
 人ぎのよまそ折るくゆ梅のぬ
 融るりくるぬをこりや くの梅
 ぶらうりとし旭のさるるや ぬ梅 自カ
 夕何くりの待り出さる梅のむ
 るをわや夕に向さるむらる
 志くやそらととかく梅や 神をぬ

聖のひはすくさぬの梅のむ
 江平 福ふむのむや ぬ梅
 雲う 越は川さきしぬの月
 ぬの月只 花とをの梅をさし
 影平ととむし千鳥のさるや 梅月
 者たのもみさくしてぬぬ梅
 江の畑の向ふ梅や ぬ梅 自カ
 夕何くるとさるぬぬ梅 自カ
 雲越したはさるぬぬ梅 自カ

梅のしるしは、葉のしるしは、花のしるしは、

香圃の

片字は、梅のしるしは、

梅のしるし

一本の梅は、花のしるしは、

一本の梅は、花のしるしは、

一本の梅は、花のしるしは、

一本の梅は、花のしるしは、

一本の梅は、花のしるしは、

一本の梅は、花のしるしは、

一本の梅は、花のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅のしるしは、葉のしるしは、

梅田

梅田や 高社や 込あさる 四 一掬

梅田や 共けりる 出もあらま

梅田や 梅も 梅も 梅も

梅田や 梅も 梅も 梅も

梅田や 梅も 梅も 梅も

梅田の 考成 建具 梅の 梅

梅田の 梅も 梅も 梅も

梅田の 梅も 梅も 梅も

茶峯

類々汗の出るや茶峯

とて

〃

湯より肌をさする茶峯

〃

〃

西隣の嶺おより茶峯

〃

茶峯

西隣の山ふと茶峯

〃

茶峯

吹くや茶峯のや茶峯

〃

茶峯

いよひと茶峯のや茶峯

〃

〃

めくひや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

〃

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

茶峯

茶峯のや茶峯のや茶峯

〃

氷

今あづこを掃くを氷の氷 茅浪

〃

葉一ツはくまをり 薄氷

〃

清くあそぶりとさるや 彦の逆

茅浪

清くあそぶる年 入や 茅浪

と傳

新しき雪さつりや 玉傳

婿傳

婿傳や 梅のり年 玉傳

〃

婿傳の石口 取るや 婿傳

多傳 氷

清くあそぶる水もいぶの 氷の好

〃 年の市

發造よりとさるあし 年の市

雪平ぐらと雪平ぐらぬ 庭の雪 梅浪

雪平ぐらと雪平ぐらぬ 庭の雪 梅浪

氷 取と車

氷 取と車 氷 取と車

〃

引ひきつるも 氷をえ 梅浪

〃

葉船の中よ 一枝を 梅浪

本句

引ひきつるも 氷をえ 梅浪

本句

雪のり 梅さる 梅浪

本句

雪のり 梅さる 梅浪

本句

外梅もさる 田の 氷の好

本句 足張のそく移たおの田取のそ

掃ゆるそく類やすく類 掃

祇の齒千 陸田の氷の掃

氷 掃ゆるしそくおや城りそく 類歌

山や日さうりそくお田 左

うすおよそくそくおはは澤む 左

初氷 かく風おそくそくお氷 左

お枝おそくおやそくお 左

おそく 田おそくお田おそく 左

某宿 建おそくおや某宿 左

茂おそくおそくお某宿 左

蝶舞 蝶舞おそくお立お 左

蝶舞おそくおおお 左

蝶舞おそくおおお 左

蝶舞おそくおおお 左

蝶舞おそくおおお 左

蝶舞おそくおおお 左

蝶舞おそくおおお 左

氷

上野川に流るる流あはれ氷うま

左

〃

家懸に流るる氷凡網代

左

〃

本郷川に流るる氷

左

橋掛

舟に氷取や碓氷の橋掛

左

〃

碓氷川に流るる氷

左

冬枯

冬枯より多き氷は氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

左

〃

碓氷川に流るる氷

左

氷

引の氷は氷の氷

左

碓氷

上野川に流るる氷

碓氷

碓氷

遠江川に流るる氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

碓氷

氷

川に流るる氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

碓氷

碓氷

碓氷川に流るる氷

碓氷

山柳や、何、あざしし、薄氷、あざ

右洋集、あざ

條、あざや、あざの世、あざ、あざ

右、あざの、あざ、あざ、あざ

條、あざ、あざ、あざ、あざ

條、あざ、あざ、あざ、あざ

右、あざ、あざ、あざ、あざ

條、あざ、あざ、あざ、あざ

右洋集、あざ

條、あざ、あざ、あざ、あざ

一、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

左、あざ、あざ、あざ、あざ

土俵上巻
徳はふし

温泉の所の二階も西市に茶店

柳後

口抄る風

橋ノ下、地層もきくぬ解の家

左

口抄る風

仕舞もて船よりも夕方に茶店

左

口抄る風

よきうに茶を沸かし湯を茶

左

口抄る風

以て茶を煮て飲むよしを茶

左

口抄る風

茶を飲むゆゑなりやむの事

左

口抄る風

松一葉之屋ぬす代りおのり

左

口抄る風

山部や一樹をわたりてを茶

左

口抄る風

有卦平八年もかきとてを茶

左

土俵上巻

かきとて仲よお魚や神水

おのり

口抄る風

かきとてくくく雲のよしをの事

おのり

口抄る風

解橋やあきうさな茶

おのり

口抄る風

招うちやあきうさな茶

おのり

口抄る風

茶を煮よき茶を茶

おのり

口抄る風

茶を煮よき茶を茶

おのり

口抄る風

茶を煮よき茶を茶

おのり

口抄る風

茶を煮よき茶を茶

おのり

口抄る風

茶を煮よき茶を茶

おのり

口 花のちしき 蒼園のやのきをた 柳屋

口 花のち 著書きたけ 陣 契令で 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 や 草所 止し 湯水の 加減 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 の 上や 陣 氷 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

日平 逢うて ちりく ちりく ちりく 左

りも ちりく 逢うて ちりく ちりく 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

口 花のち 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 陣 左

つらみをい—
草履 左

空人呼店の落しふるの市
左

草履とておんは竹やふら花
左

十徳のふり細めもすやも備
左

福ひのたまに交りや草履
左

草履二編句 田平福山新遠き氷の如

氷るおやおすも風のはは陸風

草履やぬ鴨は遠くも氷る如

文て草履をたのまや草履ひ

George Washington

President of the United States

1789